

2021 年度 DRP 検討委員会

第 2 回会合議事録

日時： 2021 年 7 月 19 日(月) 14:00～16:00

場所： リモートでの開催

議題：

1. 2021 年度 DRP 検討委員会第 1 回会合議事録（案）について
2. JP-DRP の多言語化及び WIPO との提携などについて
3. 2021 年度第 2 回パネリスト候補者研修について
4. その他

資料一覧：

- 資料 1 2021 年度 DRP 検討委員会第 1 回会合議事録（案）
資料 2 JP-DRP の多言語化及び WIPO との提携などについて
資料 3 2021 年度パネリスト候補者研修について

参考資料 2 2020 年度における JP-DRP の申立て状況と分析

参考資料 3 JP ドメイン名紛争処理パネリスト候補者向け研修資料

参考資料 4 2021 年度 DRP 検討委員会活動方針に向けた検討課題リスト

3. 出席者(50 音順)(敬称略)

	氏名	所属
DRP 検討委員会 委員長	井上 葵	アンダーソン・毛利・友常 法律事務所 外国法 共同事業 弁護士
DRP 検討委員会 委員	卜部 晃史	弁護士法人 瓜生・糸賀 法律事務所 弁護士
DRP 検討委員会 委員	早川 吉尚	立教大学 教授/弁護士
DRP 検討委員会 委員	山口 裕司	大野総合 法律事務所 弁護士 日本知的財産仲裁センター運営委員
担当理事	曾根 秀昭	JPNIC 常務理事 DRP 担当

JPNIC 事務局：林 宏信、前村 昌紀、山崎 信

4. 傍聴

JPNIC1 名

5. 議事

14時に井上委員長により開会された。

議題1. 2021年度第2回会合議事録(案)について

- ・2021年度第2回の議事録については、結論を記載する形のとおりとなっている。山口委員の所属の記載の修正と議題4の記載の中のタイポか所の修正をもって確定とする。
(井上)

議題2. JP-DRPの多言語化及びWIPOとの提携などについて

- ・早川委員から、日本政府の外国仲裁機関を日本国内に誘致しようとする動きおよびその中のWIPOとの関係性について報告され、JP-DRPに関しても、WIPOと取り組む可能性などについて説明された。
- ・山口委員より、WIPOとJIPACの関係の経緯と現状について説明があり、WIPOは多くの国のccTLDの紛争処理も行っているが、日本人の事件管理者がいないことや当事者と無関係の国籍の人をパネリストに選任することから、日本の事情に通じていないまま判断がなされる可能性などの懸念点が示された。
- ・多言語化の文脈の中でのWIPOとの提携であるなら、英語以外の言語への対応の必要性については疑問がある。
- ・現状において、JP-DRPでは、パネリストが日本人のみであるために、外国人に不利になる懸念がある。
- ・情報を整理するためにも、まずはWIPOの話聞いてみるころから始める。

議題3. 2021年度第2回パネリスト候補者研修について

- ・本年度2回目のパネリスト候補者研修(9月29日開催)は、佐藤先生に講師をお願いし、準備は終わっており、案内を出せるだけ。
- ・2021年度第3回目の開催の有無などは、第2回の研修を終えた後、次回の検討委員会で

検討する。

- ・今後の研修は、ケーススタディを中心に実施する方向で、次回に向けてリストを作成して事案の選定を次回行う。

議題4. その他

- ・次回検討委員会は、パネリスト研修後の、10月1日（金）13時から15時で開催することとする。

以上をもって、井上委員長により会議は16時00分に閉会された。

以上